３－４　主要簿と補助簿

【重要性：A】

ＰＯＩＮＴ！

帳簿の種類を覚えよう！

（１）仕訳帳と総勘定元帳

仕訳を記入する帳簿を**仕訳帳**（しわけちょう）といいます。また、各勘定を記入する帳簿を**総勘定元帳**（そうかんじょうもとちょう）（単に、**元帳**（もとちょう）という場合もあります）といいます。仕訳帳は仕訳を行うノート、総勘定元帳は各勘定が集まったノートをイメージして下さい。

取　引　──仕　訳──→　**仕　訳　帳**　──転　記──→　**総勘定元帳**

仕訳帳と総勘定元帳のひな形を以下に示しますが、具体的な記入方法は［15－１］で学習します。

仕　訳　帳

4

日付		摘　　要	元丁	借　方	貸　方
1	1	(現　　　金)	1	10,000	
		(資　本　金)	7		10,000
		元入れして開業した			

総 勘 定 元 帳

現　　金　　　1

日付		摘　　要	仕丁	借　方	日付		摘　　要	仕丁	貸　方
1	1	資　本　金	4	10,000					

資　本　金　　　7

日付		摘　　要	仕丁	借　方	日付		摘　　要	仕丁	貸　方
					1	1	現　　　金	4	10,000

（2）主要簿と補助簿

仕訳帳と**総勘定元帳**は損益計算書と貸借対照表を作成するために、必ず必要な帳簿ですので**主要簿**といわれます。

また、お店や会社は必要に応じて主要簿以外の帳簿を使う場合があります。特定の取引や特定の勘定について、より詳細に管理・把握したいときに主要簿を補助する**補助簿**という帳簿を使用します。なお、補助簿は**補助記入帳**と**補助元帳**に分けられます。

補助記入帳とは、特定の取引の明細を記録する補助簿をいいます。補助元帳とは、特定の勘定について会社別、種類別の明細を記録する補助簿をいいます。

例えば、以下のものがあります。

主 要 簿　仕訳帳、総勘定元帳：［15－１］で学習します。

補 助 簿

- **補助記入帳** …
  - 現金出納帳：［16－１］で学習します。
  - 小口現金出納帳：［５－３、16－３］で学習します。
  - 当座預金出納帳：［16－２］で学習します。
  - 売上帳：［15－５］で学習します。
  - 仕入帳：［15－６］で学習します。
  - 受取手形記入帳：［16－４］で学習します。
  - 支払手形記入帳：［16－５］で学習します。
- **補 助 元 帳** …
  - 売掛金元帳：［15－３］で学習します。
  - 買掛金元帳：［15－４］で学習します。
  - 商品有高帳：［16－６］で学習します。

３－５　簿記一巡

【重要性：A】

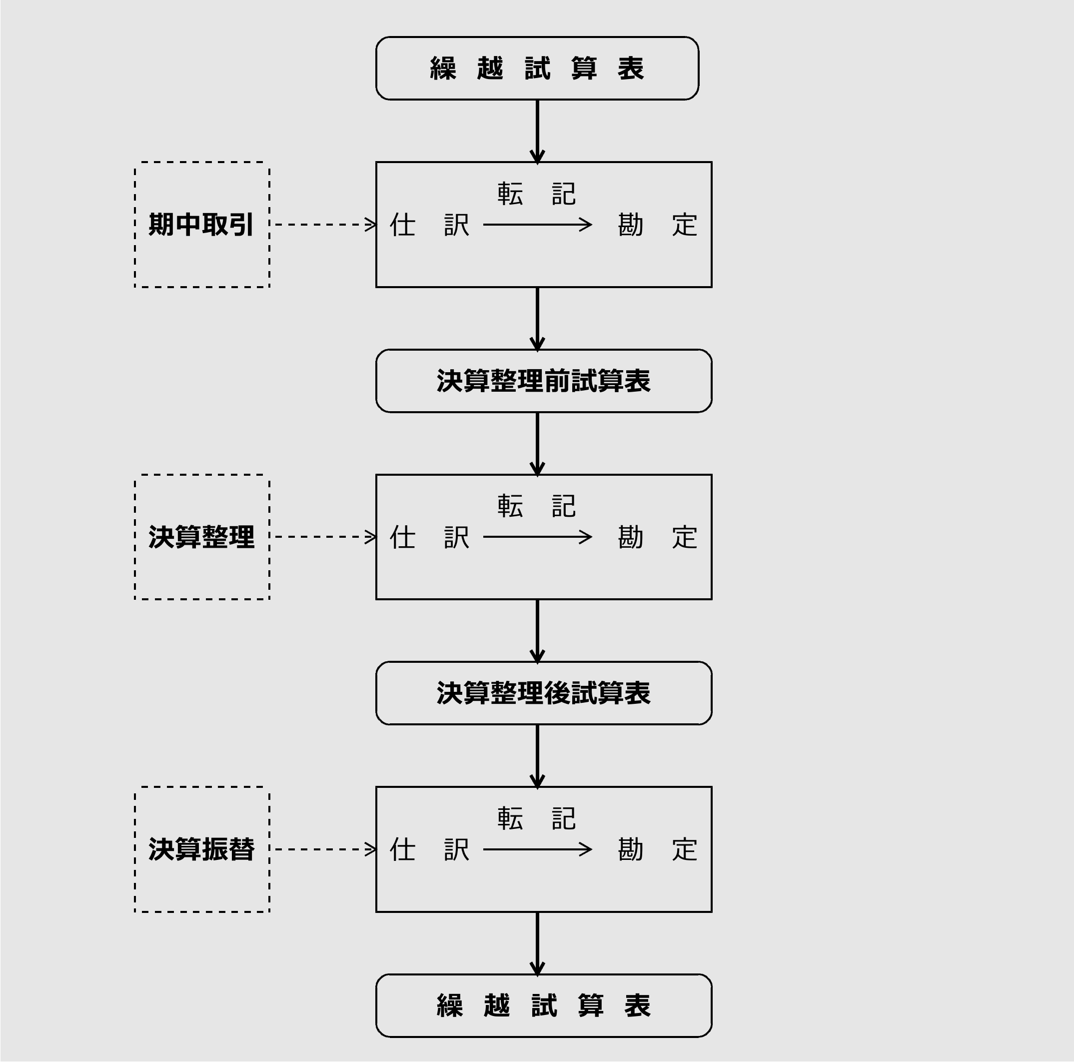
ＰＯＩＮＴ！

①　簿記一巡をイメージできるようにしよう！

②　決算整理をイメージできるようにしよう！

（1）簿記一巡

簿記の手続きには、①期中取引、②決算整理、③決算振替があります。それら一会計期間に行う簿記の手続きを**簿記一巡**といいます。簿記一巡を図で示すと以下のようになります。



これまで日々の取引について仕訳を行ってきましたが、それは①期中取引に該当します。ここでは、②決算整理について説明します。

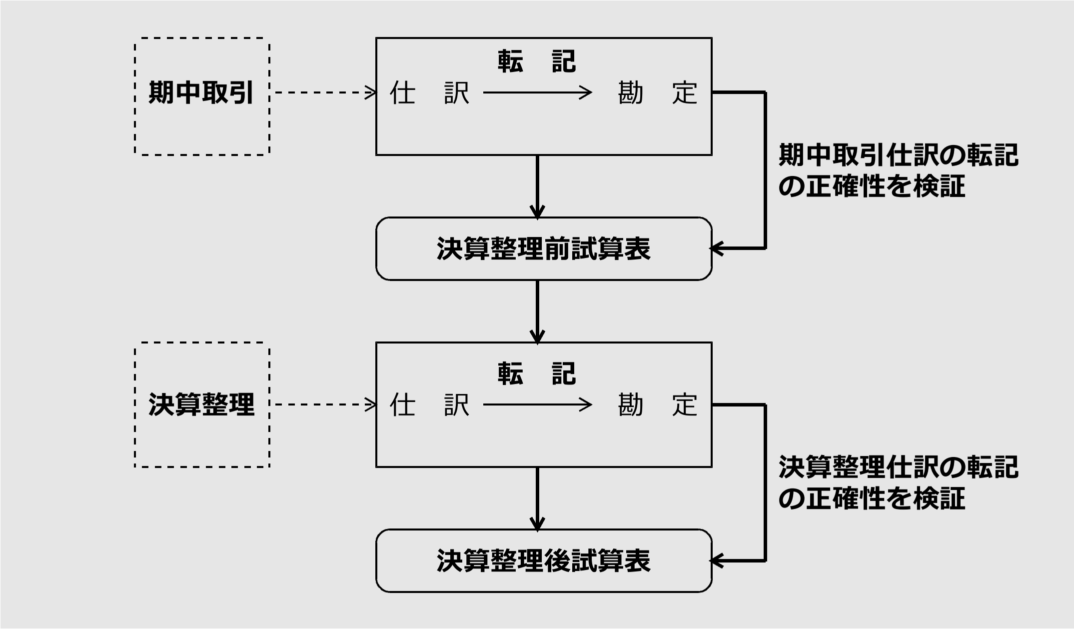
なお、③決算振替については第18章で学習します。なお、これからの学習において、処理している仕訳が期中取引仕訳なのか、決算整理仕訳なのかをしっかり区別することが大切です。

（2）決算整理

決算とは、経営成績や財政状態を明らかにするため、必要な処理を行い、帳簿を締め切り、損益計算書や貸借対照表を作成するという一連の手続きをいいます。

その中でも、期中取引が正しく行われていても当期の経営成績や財政状態を正しく表すために、必要な修正を行うことを**決算整理**といい、決算整理に関する仕訳を**決算整理仕訳**といいます。

決算作業に入る前に、期中取引仕訳の転記の正確性を検証するために試算表を作成します。これを**決算整理前試算表（前T/B）**といいます。また、決算整理仕訳が行われた後に、決算整理仕訳の転記の正確性を検証するために試算表を作成します。これを**決算整理後試算表（後T/B）**といいます。



決算整理としては、例えば以下のものがあります。

・売上原価の算定：［４－１］で学習します。
・固定資産の減価償却：［８－２］で学習します。
・現金過不足の処理：［12－２］で学習します。
・貸倒引当金の設定：［13－２］で学習します。
・引出金の整理：［14－２］で学習します。

Point!　前T/Bと後T/Bの違いを理解しましょう！

第３章　簿記の基礎③　問題

問題3-1　**以下の勘定にもとづいて、損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。**

現　　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
1	1	資　本　金	40,000	1	2	建　　物	20,000
	3	受 取 家 賃	5,000		4	水 道 光 熱 費	1,000
	5	借　入　金	7,000				

建　　物

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
1	2	現　　金	20,000				

借　入　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				1	5	現　　金	7,000

資　本　金

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				1	1	現　　金	40,000

受 取 家 賃

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
				1	3	現　　金	5,000

水道光熱費

日付		摘　　要	借　方	日付		摘　　要	貸　方
1	4	現　　金	1,000				

問題3-2 **以下の合計試算表にもとづいて、損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。**

合　計　試　算　表

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
74,000	現　　　　　金	69,000
40,000	建　　　　　物	11,000
30,000	土　　　　　地	
6,000	借　　入　　金	25,000
	資　　本　　金	40,000
3,000	受　取　家　賃	12,000
4,500	旅　費　交　通　費	500
157,500		157,500

第３章　簿記の基礎③　答案用紙

問題3-1

損益計算書

水道光熱費	(　　　)	受取家賃	(　　　)
当期純利益	(　　　)		
	(　　　)		(　　　)

貸借対照表

現金	(　　　)	借入金	(　　　)
建物	(　　　)	資本金	(　　　)
		当期純利益	(　　　)
	(　　　)		(　　　)

問題3-2

損益計算書

旅費交通費	(　　　)	受取家賃	(　　　)
当期純利益	(　　　)		
	(　　　)		(　　　)

貸借対照表

現金	(　　　)	借入金	(　　　)
建物	(　　　)	資本金	(　　　)
土地	(　　　)	当期純利益	(　　　)
	(　　　)		(　　　)

第３章　簿記の基礎③　解答解説

問題3-1　**解答**

損　益　計　算　書

水道光熱費	(1,000)	受取家賃	(5,000)
当期純利益	(4,000)		
	(5,000)		(5,000)

貸　借　対　照　表

現金	(31,000)	借入金	(7,000)
建物	(20,000)	資本金	(40,000)
		当期純利益	(4,000)
	(51,000)		(51,000)

問題3-1　**解説**

損益計算書と貸借対照表には各勘定の残高を表示します。したがって、現金は31,000（＝40,000＋5,000＋7,000－20,000－1,000）として表示します。

当期純利益は収益5,000－費用1,000の差額（＝4,000）として算定します。

問題3-2 **解答**

損　益　計　算　書

旅費交通費	(4,000)	受取家賃	(9,000)
当期純利益	(5,000)		
	(9,000)		(9,000)

貸　借　対　照　表

現金	(5,000)	借入金	(19,000)
建物	(29,000)	資本金	(40,000)
土地	(30,000)	当期純利益	(5,000)
	(64,000)		(64,000)

問題3-2 **解説**

損益計算書と貸借対照表には各勘定の残高を表示します。したがって、各勘定の表示される金額は以下となります。

現　　金：74,000－69,000＝5,000
建　　物：40,000－11,000＝29,000
借 入 金：25,000－6,000＝19,000
受取家賃：12,000－3,000＝9,000
旅費交通費：4,500－500＝4,000

当期純利益は収益9,000－費用4,000の差額（＝5,000）として算定します。